

2) 「真っ赤な肢蹄はSOS」～乳牛肢蹄改善プロジェクト活動による連携体制の構築～

根室農業改良普及センター

地域の概要

根室振興局管内は、国内生乳生産量の1割強となる年間約78万トンを生産し、広大な土地や牧草資源を活用した国内最大の草地循環型大規模酪農地帯として広く周知されている。

近年では、TMRセンターやコントラクターに代表される、農作業の委託・共同化に精力的に取り組むなど、効率的な酪農経営が推進されている。

1 普及活動の課題・目標

根室管内では、往診依頼に至らない軽度の跛行は削蹄時に処置されている現状にあることから、肢蹄障害を抱える乳牛の頭数は往診頭数以上と考えられ、相当数に及ぶことが推察された。

肢蹄における諸問題を解決するため、肢蹄の現状と課題を明らかにし、関係機関の間で飼養管理方法を具体的に提案できる技術力を共有する事を目標として、平成24年度から根室生産農業協同組合連合会(以下、根室生産連)とともに肢蹄改善プロジェクト活動を実施した(図1)。

2 活動内容

(1) 肢蹄病の現状把握(平成24年度)

根室農業改良普及センターでは、広域専門担当者3名が中心となり、根室生産連、管内4農協と連携し、酪農家25戸で、1,681頭の乳牛肢蹄実態調査を行った。

なお、本調査に先立ち、肢蹄状態の「良し悪し」評価の平準化を目的として、「蹄冠スコア」、「飛節スコア」を作成し活用した。

現地での飼養環境調査から、肢蹄状態の悪化の要因は、飛節部と蹄冠部では異なることが多いことが確認された。

(2) 肢蹄病の改善実証(平成25～26年度)

「酪農家が実施可能な削蹄技術」(平成25年指導参考事項)を活用し、抽出した要改善項目に基づき、管内の肢蹄改善を志向する農家から、各農協が①改善意欲が高く、②家族・従業員に作業内容修正の合意が得られ、③ある程度の新規投資が可能な

農家8戸を重点モデル農家として抽出し、肢蹄改善実証を行った。

肢蹄悪化要因分析に基づき、チーム構成員に対し具体的な改善策を例示し、関係団体一丸となり改善支援に取り組んだ(図2・3)。

3 活動成果

(1) モデル農家の改善が近隣の理解を深める

モデル農家の肢蹄状況が改善し生産乳量が増加するにつれ、地域の農家においても、肢蹄改善の意義についての理解が深まった。

平成26年度には、自ら改善モデル参加を希望する農家も現れ、プロジェクトに対する理解とその改善効果が浸透していった。

(2) 改善モデル実証内容の体系化

モデル農家における改善実証を重ねることにより、肢蹄のモニタリングから飼養管理改善に結びつける行程を疾病毎に体系化することができた。体系化した知見は冊子化し、現地検討会等で活用した。

(3) 根室管内肢蹄管理指導体制の構築

チーム構成員に対するOJT指導を念頭に入れ、職場の垣根を超えた技術の伝達に留意したことにより、肢蹄改善支援ができる「乳牛肢蹄のホームドクター」の養成につなげることができた。

この成果により、今まで肢蹄改善に取り組んできた普及指導員は、より難易度が高い事例に取り組むことができるようになり、プロジェクトに携わる担当者間の役割分担がより明確になった(図4)。

(4) 多面的な活動成果の波及

プロジェクトの活動成果については、根室管内における伝達のほか、関係機関や、飼料・資材メーカー職員などに事例の紹介が行われた。

特に、北海道牛削蹄師協会主催の中央研修会で肢蹄改善手法の解説を行うことにより、我々が提唱した手法は、全道の削蹄師の間に情報提供されることとなった。

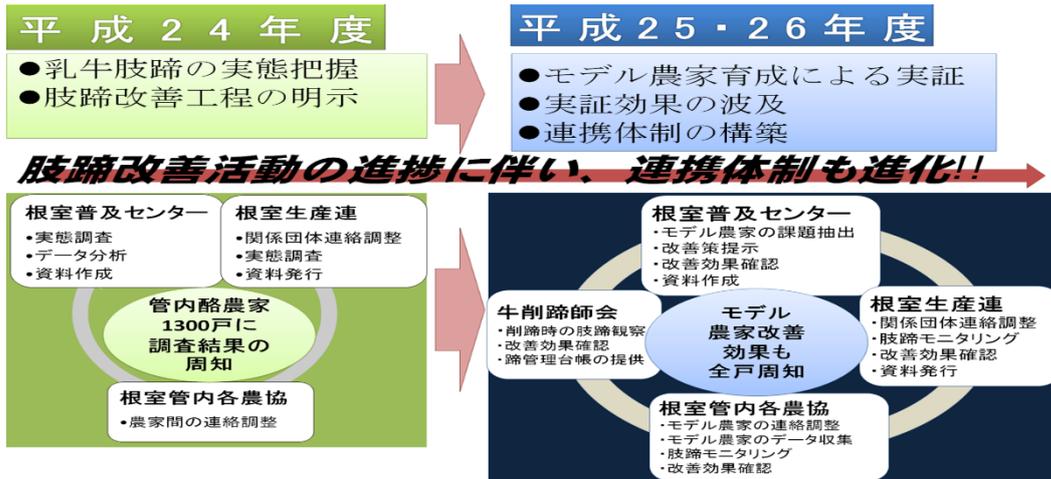


図1 肢蹄改善プロジェクト活動の推移

モデル農家Nさん (20歳前:30代)

課題点

- ・特に蹄冠スコアが悪い
- ・削蹄師より趾皮膚炎、蹄底潰瘍の処置が集中との報告
- ・TMR飼料の選び合いが目立つ

改善策

- ・蹄の薬浴法改善 (薬浴前に水浴追加)
- ・飼料の掃き寄せ回数を増加
- ・除菌時間の変更
- ・TMRのエネルギーバランスを調整

モデル農家の声① (別海町Nさん:30代)

- 削蹄師には、蹄が悪いことを指摘されてきたが、どこから手を付けて良いか迷っていた
- 蹄浴方法を直したが、今は蹄が良いせいかわ搾乳時の牛移動が楽になった
- 飼料設計を見直し、個体乳量は徐々に上がっている手応えがある
- お金が貯まったら、施設の修繕を進めたい

	乳量 (kg)	乳脂肪率 (%)	乳蛋白率 (%)	空胎日数 (日)
取組前(A)	30.1	4.06	3.36	152
取組後(B)	32.3	3.95	3.64	145
対比(B÷A)	107	97	108	95

共通項目

飛節スコア、蹄冠スコアの継続的記録により牛群の肢蹄状態を把握

飼養環境改善

- ・蹄冠部のふん尿を定期的に除去
- ・牛床マットの敷設、劣化マットの交換、敷料の増量
- ・定期的に蹄の薬浴を行い感染症予防

飼料給与法改善

- ・サイレージ切断長の調整
- ・こまめな飼槽掃き寄せ
- ・タンパクとエネルギーのバランスチェック
- ・乳成分のチェック (特にMUN、乳タンパク)

まずは各団体の担当者が改善支援にトライ！改善が困難な事案には、普及センターが動出！

改善事項はシンプルに！具体的に！

図3 肢蹄悪化要因分類に基づいた改善提案内容

図2 モデル農家事例の概要

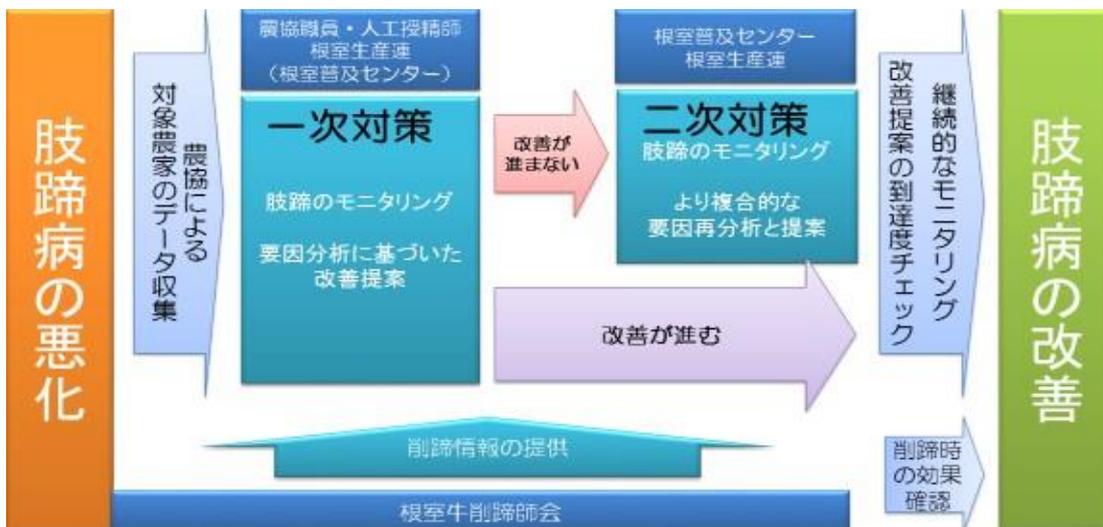


図4 肢蹄改善連携体制の模式図